

以前は、一般的なかぜの流行期直前に注意を呼びかけていました。でも、実際に身のまわりで流行していなければ、あまりピンとこないものです。

「かぜねっと」を利用するようになった今では、学区全体の状況から流行の兆しが見え始めた時期をとらえて「〇〇小で増えているので、家庭でも注意してください」とタイミングよく呼びかけられるようになりました。グラフをほげんだよりに掲載し、「見える」情報提供を心がけています。

実際の流行状況に応じた適切な時期に注意をうながせるようになったことで、現実の問題として受け止めてもらえるようになったと感じています。

高等学校

利用前330人→利用後150人。欠席が半減しました

広範囲から通学してくる生徒たちにも適切に対応

本校は在籍者数566名の実業高校です。生徒の通学範囲は広く、寮生活をしている生徒もいます。そのため、ある地域でかぜが流行すると、そこから通学してくる生徒によってウイルスが持ち込まれ、他の地域から来る生徒に感染します。こうして、流行地域がどんどん拡大していくという現象が起こります。

「かぜねっと」では広い地域の流行分布を見ることができ、かぜ症状を訴えて生徒が保健室に来た場合、その生徒の生活地域の流行状況を見てインフルエンザの疑いについて判断する手がかりとなります。そのうえで帰宅・受診・出席停止などの適切な措置を速やかにおこなっています。

「かぜねっと」で、かぜによる欠席が半減！

「かぜねっと」を利用するようになって、本校ではかぜ予防の効果がはっきりと現れています。「かぜねっと」利用前の平成14年度には、10～3月にかぜのため欠席した生徒は330人いましたが、昨年度同期では150人と半分以下になりました。

高校では、欠席・欠課時数、早退、遅刻の扱い

措置を講じる際の参考にも

学級閉鎖や休校など、集団かぜに伴う措置は各学校長の裁量に委ねられているため、学校によってその判断に違いがあります。蔓延防止と学習上の配慮とをどう折り合いをつけて考えるべきか、養護教諭としては迷うこともよくあります。

「かぜねっと」では他校の措置状況もわかるので、他校のデータから措置の効果を客観的に分析し、自校での対策の目安として活用できるのではないかと考えています。データを示すことで、管理職に対しての説得力も増すと思います。

青森県立
五所川原農林高等学校
中野 るり子



が小中学校よりも厳密です。進級・卒業だけでなく、進学や就職にも関わってくるので、欠席が多いことは生徒にとって大きなマイナス要因です。

高校生の就職難の中で、企業が求めるのは「学校で欠席の少ない生徒」です。「かぜねっと」で流行情報をいち早くキャッチし、適切な対策をおこなうことは、欠席を少なくすることにもたいへん有効なのです。

わかりやすく、説得力ある資料提供ができます

私は進級・卒業判定のための成績会議の資料作成にも「かぜねっと」を利用しています。周辺地域を含めたデータを加えることで、わかりやすく説得力のある資料となり、インフルエンザの流行期に出席停止措置を伴う欠席であったことなどをすんなりと理解してもらえます。

最近では、管理職や他の教職員から「かぜの流行状況はどうか？」と尋ねられることが多くなり、信頼を得られるようになったと感じています。

(C・Y)

2006. Feb. -43

かぜの流行状況がひと目でわかる

かぜねっとプロジェクト

に参加しませんか？

学校でおこなう毎朝の健康観察のデータを利用して、インターネット経由で地域の学校のかぜ罹患状況を共有し、かぜの予防や対策に役立てようという取り組みが進められています。小中学校の養護教諭と、教育情報システム開発を専門とする大学教員とのコラボレーションで生まれた「かぜねっとプロジェクト」です。

プロジェクトについて、弘前大学教育学部附属教育実践総合センター・小山智史先生と弘前市立新和中学校・森菜穂子先生に伺いました。

きっかけ 地域のかぜの「今日の情報がほしい」。そんな思いが出発点に

「かぜの流行を防ぎたい」。かぜの流行期を迎えると、養護教諭なら誰もが思うことではないでしょうか。

効果的な対策のためには、校内や各家庭に注意を呼びかけることはもちろん大切ですが、近隣の学校での流行状況を知ることも同じくらい重要です。地区全体の状況を把握することができれば、兄弟姉妹や他校の友だちなどからの感染の可能性を考えて、対応することができるからです。

でも現実には、新聞記事や県教育委員会のホームページから休校や学級閉鎖などの措置をとった学校の情報しか得られないという状況です。

「地域の学校の今日の情報がほしい」。そんな思いが「かぜねっとプロジェクト」への出発点になりました。

最初は、中学校区の4つの学校の養護教諭の間で、かぜの罹患状況の情報を交換することからス

タート。ファックスから始まり、メールでの情報交換と試行錯誤を重ねましたが、この方法では4校間でのやりとりが限界でした。

何かよい方法がないかと考えていたとき、弘前大学教育学部附属教育実践総合センターの小山智史先生（教育情報システム）との出会いがあり、「かぜねっとプロジェクト」が誕生しました。

メリット

かぜに関する「数字」だけで必要な情報を共有できます

「かぜねっと」はインターネットを利用しますが、個人情報は一切公開することなく、かぜの流行予防に必要な情報を共有することができます。入力するのは学校名と健康観察のデータだけ、それもかぜに関する項目（かぜ罹患患者数・欠席者数・措置状況）に限定されているので安心です。

利用範囲を広げれば、さらなる予防効果も期待できるのではないかと考えています。たとえば学校医や小児科医などに利用してもらえば、地域の流行状況に即した診療に役立てていただけます。家庭にインターネット環境があれば、保護者が我が子の通う学校での流行状況を「かぜねっと」で直接見ることも可能でしょう。

「かぜねっと」をより効果的に運用し、もっと使いやすいものにしていくために、より多くの学校のデータと実際に利用する養護教諭のみなさんの声が必要です。

簡単な操作で入力も短時間におこなえますから、パソコン初心者にも安心です。「お試しページ」もあるので、一度ぜひ体験してみてください。

使い方

ここでは、利用法のあらましを紹介しします。詳しくは、かぜねっとプロジェクトのホームページをご覧ください。「かぜねっと」で検索すると簡単に見つかります。
<http://siva.cc.hirosaki-u.ac.jp/center/kazenet/>

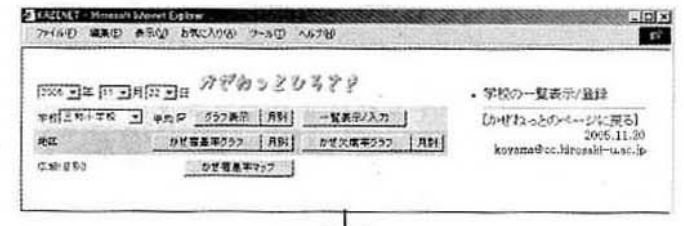
**1
参加登録
をする**

●**一校だけでも、そして全国どこの学校でも利用できます**
 ●**新たに地区を設定するとき**
 登録される地区のページを新たに作成し、ホームページからリンクします。地区の世話人を決め、koyama@cc.hirosaki-u.ac.jp（弘前大学教育学部附属教育実践総合センター 小山智史先生）までご連絡ください。世話人には「管理用パスワード」をお知らせします。

●**すでに登録されている地区内の学校の場合：地区の世話人にご連絡ください**
 世話人は各地区のトップページ【利用方法】の「3. プロジェクトへの参加」に記されています。

**2
データの
入力**

●**各学校の担当者がおこないます**
 (1) 「年月」「学校名」を選択し、
 【一覧表示/入力】をクリック。



(2) パスワード（半角英数字）を入力し【編集モード】をクリック。
 (3) データ入力欄に、「年月日」「在籍者数」「かぜ罹患患者数（遅刻、早退を含む）」「かぜ欠席者数」「措置状況」を入力し、【追加】をクリック。

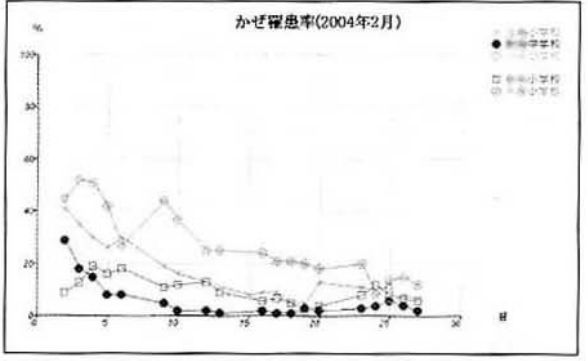
●**小学校(編集モード)**

年月日	在籍者数	かぜ罹患者数	かぜ欠席者数	措置状況	登録日	編集
2004/2/2	70	32	11	なし	2004/11/2	追加
2004/2/3	70	37	14	なし	2004/2/17	更新
2004/2/4	70	36	14	なし	2004/2/17	更新
2004/2/5	70	30	14	なし	2004/2/17	更新
2004/2/6	36	10	1	学年-学級閉鎖	2004/2/25	更新
2004/2/20	70	11	1	なし	2004/2/25	更新

※数日分をまとめて入力してもかまいません。

**3
罹患状況
の閲覧**

●**状況がひと目でわかるグラフ表示やマップ表示が簡単にできます**



基本的な操作は画面上部のメニュー画面でおこないます。

●**地区のデータを一括表示**>
 【かぜ罹患率グラフ】 【かぜ欠席率グラフ】 をクリック。

●**学校ごとに表示**
 学校名を選択して【グラフ表示】をクリック。【平均】をチェックしておく地区の平均も表示されます。【年月】を指定して【月別】を押すと、月別表示できます。

●**かぜの流行状況をマップ表示**>
 「年月日」を指定し、【かぜ罹患率マップ】をクリック。すべての地区の「かぜねっとプロジェクト」のデータを調べ、地図上に罹患率に応じたマークが表示されます。



かぜねっと 利用している先生方に聞いてみました

小学校

●**推移がひと目でわかるから、年間通して利用しています**



青森県
弘前市立三和小学校
木村 裕子

異学年交流がさかんなため、地域の情報は不可欠
 本校は児童数73名の小規模校で、子どもの少ない地域の事情から、学年が異なっても家の近い子どもどうして遊ぶことが多いという特徴があります。ですから、地域のかぜの状況を知ることは、流行拡大を防ぐうえでとても重要なのです。

かぜの流行期にはグラフを印刷して校内で回覧し、教職員にいち早く状況を知らせます。また、ほけんだよりで子どもたちや保護者に注意を促すのにも利用していますが、「中学校では、かぜで欠席が〇〇人」と具体的に知らせることで「気をつけなくては」という気持ちになるようです。

冬以外にも毎日数人はかぜ症状を訴える子どもがいるので、私は年間を通して「かぜねっと」を利用しています。冬以外は利用する学校が少ないのですが、自校の推移が簡単にグラフ表示できるので、かぜ症状の子どもが増えてきたとき、すぐに注意を呼びかけるのに役立っています。

●**手の空いた時いつでも入力できるのが便利**

「かぜねっと」の便利なところは、データを入



●**「見える」情報提供で、予防の必要性を実感できます**

中学校

青森県
弘前市立新和中学校
森 菜穂子

●**高校受験に向かう3年生をかぜから守りたい**

中学校では、高校受験とかぜの流行期が重なるため、罹患状況の変化には特に注意しています。

力する時間に制約がないことです。手の空いたとき自校のデータを入力しておき、帰る前などにもう一度チェックすれば、その日の学区全体の状況が把握できます。

●**他校との比較から環境面の違いにも気づきました**

「かぜねっと」で他校の罹患状況が把握できるようになって、同じ学区内でも流行のしかたに差があることに気づきました。その理由を考えているうち、校舎の新旧による暖房環境の差が影響しているのではないかと思います。校舎の新しい学校は建物全体が暖かいのですが、古い校舎では教室と廊下の温度差が大きく、それがかぜのひき方の違いとなって現れていると推測されます。

こうした環境面の問題についても、単に「感覚」として訴えるだけではなく、具体的なデータを示すことで対策や改善の申し入れがしやすくなるのではないのでしょうか。

小学校に通う弟妹がいる場合、家庭から学校に広がる可能性もあるので、学区の情報を得ることが重要な課題でした。「かぜねっと」では、地域全体のその日の状況がひと目で把握できるので、より効果的な対策をおこなうことができます。

●**グラフ表示で流行の兆しが「見えて」きます**

かぜの流行する時期は年によってまちまちです。